

二〇一九年度 トキワ松学園中学校入学試験  
**適性検査型 適性検査I B** 問題用紙

受験番号

開始と同時に受験番号を  
書き入れなさい。



次の[A]と[B]の文章を読んで後の(1)～(9)の各問いに答えましょう。

[A]

「体感」によるコミュニケーションはいろんな解釈も可能にしてくれる。なごやかな会話をたのしんでいるようにみえても、相手が腕時計に目をむけているのは、そろそろ切り上げたい、ということの意味している。俗に「(1)」は口ほどにものをいい」ともいう。ゴフマンの有名な『顔のはたらき』もこのような「ことば」にとらわれないうコミュニケーションについての考察であった。歌舞伎の名セリフに「互いに見交わす顔と顔：おお、読めた」というのがあるが、ひとが「読む」のは「ことば」だけではない。「顔」をはじめ、さまざまなしぐさも読みとる能力をもっているのである。

それに「ことば」が発せられていても、そのことばを体感的にうけとることができないこともある。たとえば不祥事があると、当事者が「このたびは多大なご迷惑をかけ…」と定型文のお詫びのことばをのべ、「再発防止に努力いたします」といって最敬礼する情景にはテレビでよくおめにかかるが、あれはおおむね用意された文章をただ読み上げているだけ。だから、あんまり反省・②謝罪の「気持ち」が伝わってこない。そういうとき、謝罪されるほうは「誠意がない」といって不満をしめす。おおげさに土下座されても体感的にはかえって不愉快だ。ちゃんと謝っているじゃありませんか、といっても無駄である。

「(3) 鮮なきかな仁」ともいう。コミュニケーションという

ものはやたらにおしゃべりをするからいい、というものではなさそうなのである。

「体感」はだいいじだが、そんなにしょっちゅう生きた人間どうしが、「顔と顔」で向き合っているわけではない。私たちのコミュニケーションはおおむね「ことば」で成り立っている。ここで「言語」についてもろもろの学説のおさらいをするつもりはモウトウないが、「ことば」をつかう、というのは簡単なようで、じつはたいへんにむずかしい。というのは、世間にわかってもらおうためにはかなり訓練が必要だからだ。

[B]

(略)

わたしたちの「はなしことば」、とりわけ世間話のほとんどすべてはその場で空中に飛散してなにもとどめないが、ごく一部は「文字」というおどろくべき発明品によって痕跡をとどめてきた。ロゼッタ・ストーンのような大昔のことはここではとりあげないが、わたしたちのふだんの生活の中でどれだけ文字が活躍しているかにおどろかないわけにはゆかない。あたりまえのことだが、商品やサービスのやりとりにあたっては契約書、納品書、領収書といった書類が必要になる。いくららしい間柄でも「口約束」はマチガイのもと。言った、言わない、でめんどうなことになったりもする。だから文字にする。

人間の記憶力というものはそんなにアテになるものではない。いいまちがい、ききちがいもある。だからだいいじなことは文字にしておく。

会議ではそれぞれの発言の「議事録」がつくられる。新聞記者は取材にあたってノートやメモ帳にペンを走らせる。学生は授業で聞いた講義の要点をノートにのこす。ふつうのとおりとめもない雑談のなかでも、突然、はじめてきく植物の名前などが出てくると、ちよつともういちどいつてくれない？ メモをとるから、といつて新知識を文字にして書きつける。(略)

文字というものは時間を超越したメディア(やりとりの手段)である。信長が秀吉に宛てて書いた手紙は四百年の歳月をへたこんにちでも読むことができる。ふたりの関係がどんなものであったかがわかる。およそ「歴史」というものを学ぶことができるのは、(④)文字という記録手段が発明されたからだ。「歴史」は「文字」とともにはじまるのである。

そんなことはさておき、「交際圏」の立場からみてだいじなのはわたしたちが同時代人だけではなく任意の過去のひとびと「知り合い」になることができる、ということだ。「友人」ということばは適切でないが、本をひらくことで、わたしは孟子を知ることができる。本居宣長から学ぶことができる。わたしの書棚にならぶ本の背表紙から目についた人物を手当たり次第に⑤レッキョとしてみると、わたしには田沼意次、ソースタイン・ヴェブレン、紫式部、マルコ・ポーロ、周作人、カール・マルクス、平田篤胤、その他、各国、各時代、各分野におよんで数千におよぶ「知り合い」がいる。かれらの「顔」はもちろん知らない。会ったこともない。ましてや会話をかわしたこと

もあるはずがない。しかも、こつちが一方的に知っているだけで、先方は後世のわたしのことなどまったくご存じではない。でも、これら⑤過去の「知り合い」のおかげでわたしはじぶんの知識をふくらませできた。

生身の「顔」でつながる世間は伸縮する。しかし「顔の世界」の大小にかかわらず、わたしたちは⑥文字をつうじていくらでも「交際圏」をひろげてゆくことができる。相手は古今東西、無数といつてよい。「人間」は「世間」と同義だ、とわたしはくりかえしのべてきた。そしてたとえ「顔」はみえなくても、わたしは文字をつうじいくらでもたくさんひとと知り合い、世間を無限に拡大する可能性をもったのである。こんな方法で交際圏をひろげる努力をかさねるひとのことをむかしは「読書人」といった。

こうして人間どうしのつきあいが、顔の世界、文字の世界をふくめてまるで生き物のように相互に作用してうごいている状態のことを一般に「ネットワーク」という。情報の、あるいはつきあいの「網の目」とでもいふべきか。コンピューターや携帯電話、そしてそこから派生したもろもろの情報端末のおかげで世の中はずいぶんかわってきた。これらの機器が文字を電子的に処理して、わたしたちの手もとに送られてくる。これまで数十年を生きていた人間にとつては想像すらしなかつた新世界が眼前にある。いや、そのなかでわたしは生きている。しかし、この新時代は同時にあらたな「文字の時代」でもあることに注意しよう。なぜなら、これらの端末にふれる人間の大多数がこれを

「メール」の送受信に使用しているからである。

(出典 『社会学』くわたしと世間』加藤秀俊)

\*問題作成にあたり、一部削除した部分があります。

【注】

- \* 1 不祥事：組織などの内部で起きた社会的信用を失う事件
- \* 2 痕跡：何かが行われた(あった)ことを示すあと
- \* 3 ロゼッタ・ストーン：古代エジプトの文字の解読に重要な手がかりとなった石碑
- \* 4 孟子：紀元前中国の儒学者
- \* 5 本居宣長：江戸時代の国学者・文献学者・医師
- \* 6 田沼意次：江戸幕府老中
- \* 7 ソースタイン・ヴェブレン：19世紀・20世紀初頭期のアメリカの経済学者・社会学者
- \* 8 紫式部：平安時代「源氏物語」の作者
- \* 9 マルコ・ポーロ：13世紀ヴェネツィア共和国の商人で『東方見聞録』を口述した冒険家
- \* 10 周作人：現代中国の散文作家、翻訳家
- \* 11 カール・マルクス：19世紀ドイツ・プロイセン王国出身の哲学者、思想家、経済学者
- \* 12 平田篤胤：江戸時代後期の国学者・神道家・思想家
- \* 13 伸縮：広がったりちぢんだりすること

(1) ——— 線④のカタカナを漢字に直しましょう。

(2) ( ① ) にあてはまる体の一部の漢字と同じ漢字を使う慣用句を次の中から一つ選び、記号で答えましょう。

- ア 木で ( ) をくくる      イ ( ) を皿のようにする  
ウ ( ) に衣着せぬ      エ ( ) を並べる

(3) —線②「謝」は言・身・寸の三つの漢字が横にならんだ形できている。「謝」のように、次の   の中から二つと、あと一つ足りない漢字を横に三つならべて、一つの漢字を作りましょう。

(人はにんべん、木はきへんなどにもなるものとする)

(例)

寸	身	言
↓		
謝		

反・白・木・人・重

(4) 「( ③ ) 鮮なきかな仁」は、「言葉がうまく、人から好かれようと愛想をふりまく者には、誠実な人間が少なく、人として最も大事な仁の心(人間関係や相手を重んじる心)が欠けているものだ」という意味です。( ③ ) にあてはまる四字熟語を次の中から選び、記号で答えましょう。

- ア 巧言令色 こうげんれいしき      イ 言語道断 ごんごどうだん  
ウ 異口同音 いこうどうおん      エ 片言隻語 へんげんせきご

(5) ( ④ ) にあてはまる最も適切な言葉を一つ選び、記号で答えましょう。

- ア ようやく      イ かなり      ウ すっかり  
エ ひとえに      オ どうか

(6) ——— 線⑤「過去の「知り合い」とありますが、これはどのような意味ですか。次の中から最も適切なものを一つ選び、記号で答えましょう。

- ア 自分が今まで生きてきた中で、友人になったすべての人のこと  
イ 今まで出会った人だが、こちらから一方的に知っているだけの人のこと  
ウ 本を読んで知ることができる歴史上の人物のこと  
エ 自分と同時代に生き、自分の知識をふくらませてくれる人

(7) ———線⑥「文字をつうじていくらでも「交際圏」をひろげてゆくことができる」とありますが、文字をつうじて広げる交際はどのようなものですか。また、今ほどのようなものにかわってきていますか。簡潔に説明しましょう。

(8) 次のア～エの中から、本文の内容にあてはまるもの一つを選び、記号で答えましょう。

ア これからの新時代は他のコミュニケーションが発達し、「文字の時代」とは言えなくなってしまうだろう。

イ 文字、対面ふくめて人とのつきあいが相互に作用してうごいている状態のことを「ネットワーク」という。

ウ 人間の記憶力ほど確かなものはないので、文字や紙面で残す必要はこれからますますなくなっていくだろう。

エ 人と人とのコミュニケーションの場合、会って言葉を交わせば必ずすべての真意は伝わる。

(9) [A][B]それぞれの文章は、コミュニケーションについて書かれています。現代の情報社会において、あなたが人とコミュニケーションをとる時に大切だと考えることは何ですか。具体例をあげながら、後ろの「注意事項」に合うように書きましょう。

〔注意事項〕

○ 解答用紙に三百字以上四百字以内で書きましょう。

○ 原稿用紙の正しい用法で書きましょう。また漢字を適切に使いましょう。

○ 題名や自分の名前は書かずに、一行目、一マス下げたところから書きましょう。

○ 三段落以上の構成で書きましょう。

○ 句読点（、。）やかっこなども一文字に数え、一マスに一字ずつ書きましょう。また、段落を変えた時の残りのマス目も字数として数えます。

